



水組み

組んだ部分が「水」の形をしています。指物師の経験と技が冴える芸術品。



一刀彫

吉野杉、楠を材料に匠の技が彫り上げた美術工芸品。贈り物にもどうぞ。



木工品

自然木の感触を生かした手作り木工品。身近な道具にも本物の技が。



わりばし

吉野杉の美しい木目を生かしてつくられた香り豊かな箸です。



杉の葉染め

杉の葉で染めた染物。やさしい色合いが人気です。

暮らしに息づく木工品——伝統工芸品からふだん使いの道具まで



磨き丸太 (京木)



原木市

その昔、大峯奥駈道を通る行者からその製法や産地を伝えられた本村の住民が洛北の北山へ行って学んだのが始まりとされていますが、詳細な資料等は無く、真偽のほどはわかりません。
製法は7月頃に伐られた木を、11月頃まで山林内で乾燥させ、必要な長さに切つて出材します。出材された木は丁寧に皮をむき、厳寒期に表面を磨きます。主に床柱として利用されます。



高野槇

仏壇に供えられる切り花としてよく用いられますが、平成18年の9月に、悠仁さまの「お印」に決まり有名になりました。
黒滝村の高野槇は古木が多く、切り花としての品質が高いため、市場でも高値で取引されています。
また、木材としては耐湿性があるので、風呂桶や船材として利用されてきました。



人と自然が育む…吉野林業

吉野林業は、密植とこまめな撫育により、良質な材の生産を行っています。その概略を紹介します。

① 植林

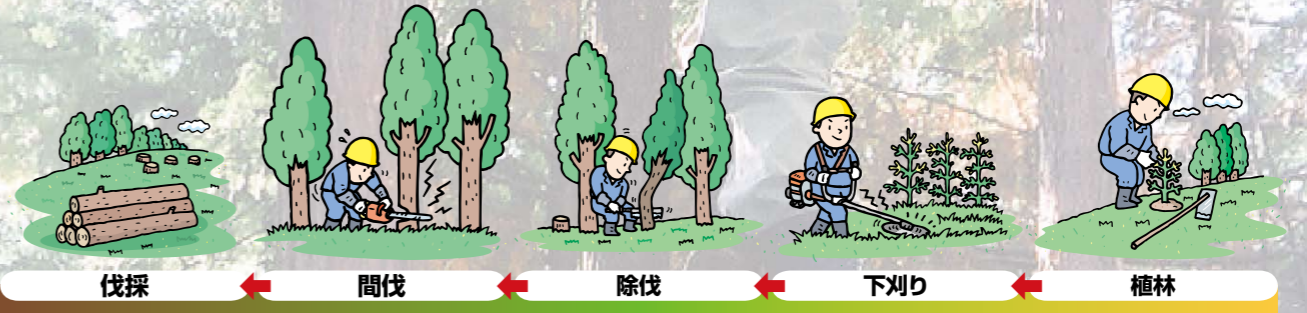
通常の林業における植林は、1ヘクタール当たり3000本程度ですが、吉野林業では8000本程度の苗木を春先に植えます。これは、まっすぐに節のない材を育てるために編み出された方法です。
植林を行うためには、植える場所を「地開け」と呼ばれる作業で、雑草などを刈り、刈った草などが邪魔にならないように集め、日当たりのよい状態にします。その後、苗木を一本ずつ穴を掘りながら丁寧に植えてゆきます。苗木が乾かないようにスプレーも要求される大変な作業です。
すべての苗木が植えられ、育成に必要な肥料をまいて植林は終わります。木の性質に合わせて、乾きやすい尾根周辺には松、温気が多い谷周辺では杉と場所に合わせた樹種の選定が重要となります。

② 下刈り

苗木の成長よりも雑草の成長が早いいため、雑草が日光を遮り苗木を枯らしてしまつともあります。そのため、雑草を刈る作業が必要で、この作業を下刈りと言います。
植林したばかりの苗木は小さく、雑草よりも目立たないため、慎重に刈らないと苗木まで刈ってしまうこともあるので、注意が必要です。植林後5年程度この作業が必要となります。



②下刈り



③ ヒモ打ち・枝打ち

植えた木は、手入れがなされない節だらけの木になってしまいます。自然な木を好む人もいますので、節がある木でもよいのですが、吉野杉や松は節のないまっすぐな年輪の話まっている物が好まれます。
枝がある節になると、枝が細い段階での枝打ちが必要となってきます。この作業は以前は、10m程度の高さまで行われていましたが、そんなに高い所で止めておく所有者も増えています。

③枝打ち



④ 除伐

密植は、良い木を選択するために、まっすぐ育たない木や樹勢の悪いものを切つていきます。この作業を除伐と言います。昔は除伐した木も八割木、刈った材を干すための木や足場用材等に利用されていたため、売買取引されていましたが、現在ではそのような需要が無いので、林内に捨てられることが多くなっています。

④除伐



⑤ 間伐

除伐期が過ぎ、ある程度の直径になると間伐となります。
間伐された木は、主に建築用材として取引されます。
黒滝村では磨き丸太に加工されたりします。

⑤間伐 ⑥伐採



⑥ 伐採

すべて伐つてしまつことを皆伐と言います。大規模な出材が可能ですが、伐つた後の手入れに手間とコストがかかるため、皆伐自体は減少傾向にあります。
80年生以上の木の伐採には危険が伴つたため、ベテランの職人さんの技術が必要不可欠となります。